



公益財団法人

日本学術協力財団

Newsletter of Japan Science Support  
Foundation

ISSUE 40, January 2023

# Newsletter



## 年頭の挨拶

公益財団法人日本学術協力財団  
会長 吉川 弘之



2023年、新しい年を迎えて、改めて今年がどんな年になるかを考えてしまおう。振り返れば昨年は地球全体が多くの難問に立ち向かわなければならぬ年だった。しかも人類全体に関係する難問で、全ての人が個人としても考えなければならぬ難しい内容を持っていた。Covid-19への対応に苦しむなかで、ロシアの侵攻は多くの人命が失われる長期の戦争になり、戦争はグローバル化の欠点を顕にして経済が混乱し、くわえて自然災害の増大、それは人工物の脆弱さを攻撃して被害が大きくなるなど、人類の繁栄を攻撃するような状況が生まれたと感じてしまう。

これらの難問に立ち向かうために、さまざまな努力が必要であるが、はっきりしているのは難問に立ち向かうためにはそれぞれ固有の科学的知識が必要なことで、科学者の役割が大きくなっていることである。

その例は、現在進行中のSDGsを見れば明らかになってくる。それは多くの科学者の参加によって成立したものである。食料、衛生、健康、教育、などの分野ごとの問題提起ではなく、17項目全ての実現により、世界で頻発する紛争を阻止する基礎的条件を満たすべきものとしての提案である。これからの世界を広く展望し災害や国際紛争のない社会を作るために働いた多くの科学者の存在を考える時、その行動は伝統的な科学者像とは違うことに気付く。

文教科理に関わりなく科学者は、善き未来のために、基礎研究によって誰でもが使える公的知識としての学問を創出する仕事をしている。しかしその知識が社会に与える影響についての詳細はあまり考えることはしない。

しかし、善き社会の実現のために「難問」を解決することが必要条件であるから、難問が多くの分野の寄与が必要である以上、基礎研究者は自分の研究課題がどのように関与しているかを深く考える責任を負っている。このことはすでに、1970年代に表明された「科学者は孤独では無く自立した科学コミュニティの一員」であるとする世界のアカデミーの認識を思い出す必要がある。気候変動も、SDGsも、それはコミュニティから選ばれた科学者の協力による助言によって成立したものである。

this issue

年頭の挨拶  
『学術の動向』季刊化について  
学会名鑑について  
学術関係団体事務支援事業  
日本学術会議地区会議について  
『学術会議叢書30』の出版  
寄附金・賛助会費の所得税控除等  
について  
出版物のご案内

公益財団法人日本学術協力財団は、賛助会員と助成金・寄附金を拠出いただいた方々のご厚意により、運営されています。

— 編集・発行 —

公益財団法人  
日本学術協力財団  
〒107-0052  
東京都港区赤坂 4-9-3  
TEL 03-3403-9788  
FAX 03-5410-1822  
URL <http://jssf86.org/>

2023年1月1日発行

日本学術会議において、選ばれる会員は、純粋に科学研究における優れた研究成果を出した科学者とされるが、会員への選出は更に研究を続けてくれというメッセージではなく、優れた成果を出した研究者は全学問分野を俯瞰し科学と社会の関係について洞察する力をもっているから、その力を使って社会に有効な科学助言をしてくれというメッセージなのである。社会が問題としている課題は、特定分野の科学者による助言でなく、学問の俯瞰的助言が必要なのであり、それには、異分野間の対話、国際的協力などが必要である。そして助言は、社会の中の諸問題に対して科学的厳密性を持つ結論でなければならない。科学助言は助言作成の途中で社会側の見解を入れたりすれば、科学的厳密性を失うことが多く、価値のない助言となってしまうというのが国際的合意である。このような科学者の使命を果たすものとしてアカデミーが成立しており、各国のアカデミーは国際科学会議（ISC）でその使命を互いに確認しあいながら、各国でそれぞれの助言をするのである。

わたしは日本学術会議の会員一人ひとりが、選出された根拠と、世界における役割とを考えつつ、優れた科学者としての力を十全に活かしながら、この困難な時代における科学者が主体的に運営する日本学術会議の存在を確たるものにするを願わずにはいられない。

## 『学術の動向』季刊化について

『学術の動向』の内容刷新と質の向上を図り、より魅力的な雑誌とするために、令和5年度から大幅な見直しを行うことといたしました。

具体的には、まず、発行頻度を現在の毎月一回から四半期に一回に変更（季刊化）し、編集委員会において十分に議論したテーマに沿って、充実した内容となるよう編集します。その際に、査読も行うことにより、掲載論文の質の確保を図り、学術誌としての価値を高めていきたいと考えます。

『学術の動向』は、従来から「科学と社会をつなぐ」という基本的考えのもと、特定の狭い専門分野に偏ることなく、分野横断的な内容を平易に表現するよう努めてきたところですが、この編集方針は変えることなくより一層強化して科学者コミュニティの総合的、俯瞰的助言活動に資することとしたいと思えます。

また、季刊化にあたり、書店での販売等も考慮し、判型をA4判からB5判に改めることとし、ページ数は200ページ程度とする予定です。

以上のような『学術の動向』改革は、科学者コミュニティ及び社会における一層の普及を目指すものであり、科学者コミュニティの代表機関である日本学術会議会員・連携会員はもとより、科学者、市民のみなきまのこれまでも増しての活用を期待します。

## 学会名鑑—令和4年度実態調査について

財団は、平成23年7月より、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、日本学術会議、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と連携してデータベース学会名鑑の運用を行っておりましたが、同事業に係るシステムの構築と運用は、今年度から、国立研究開発法人科学技術振興機構から日本学術会議に移管されることとなりました。

これをうけて、現在、日本学術会議において新しい「学会名鑑」に掲載する学協会データを更新するため、令和4年度の実態調査を行っております。

「学会名鑑」の掲載学会は、日本学術会議協力学術研究団体を対象とし、毎年、日本学術会議が行う実態調査を基にデータを更新いたします。このデータは、学協会関係の各種施策の企画・立案等、社会の多方面で活用されています。

各学術団体の関係者の皆様におかれましては、学協会の活動を発信するとともに科学技術情報の効率的な流通を目的として、引き続き、本事業にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

学会名鑑 URL：

<https://www.scj.go.jp/ja/gakkai/index.html>

## 学術関係団体事務支援事業

【日本農学アカデミー】

2022年11月5日（土）、東京大学弥生講堂及びオンラインのハイブリッド形式にて、シンポジウム「日本の食料問題を考える—ひっ迫する日本の食料需給—」が開催され、財団がその支援を行いました。

## 日本学術会議地区会議等の公開講演会開催に対する支援

財団は、日本学術会議の各地区会議等が開催する下記の学術講演会について、開催に係る支援を行いました。

◎「日本学術会議 in 宮城」公開学術講演会

「積雪・寒冷地域における暮らしのこれまでとこれから—持続可能な発展のための氷雪圏からの視座—」

2022年11月5日（土）オンライン開催



## 『「人間の尊厳」とは——コロナ危機を経て』（仮）の出版について

財団では、学術及びその成果を広く一般に普及するため、日本学術会議の部や委員会・分科会において審議された内容や、公開講演会など各種シンポジウムの記録を基に編集を行い、最新の知見を加えて、『学術会議叢書』を刊行しております。

令和4年度は、『「人間の尊厳」とは——コロナ危機を経て』（仮）と題する叢書を発行いたします。

世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、経済のみならず、社会規範や私たちの価値観に大きな変容をもたらしました。多くの感染者で混乱する医療現場では、患者一人ひとりの人としての尊厳を守るのが難しい状況になりました。さらに、死者についても、人間らしい死とその弔いが守れない事例が生じています。

今では、with/after コロナの世界を見据えた動きが出ています。このコロナ危機を経て、私たちの「人間としての尊厳」はどのように変容した（する）のか、with/after コロナの世界では、それらは守られるものなのか、「人間の尊厳」について、哲学、法学、医療・医学、宗教学など、様々な立場からの専門知を集結して、一冊の図書として纏める予定です（2023年1月末発行予定）。是非、ご期待ください。

なお、本叢書につきましても、例年と同じく、公益財団法人一ツ橋総合財団から助成をいただき、全国約1,500か所の国公立図書館、大学図書館等に寄贈することになっております。

内容ならびに執筆者は、下記の通りです。

### 【目次】

発刊に寄せて	日本学術会議会長 梶田隆章
巻頭言	日本学術会議連携会員、山梨大学名誉教授 香川知晶
哲学の立場から	日本学術会議連携会員、椋山女学園大学教授 加藤泰史
法学の立場から	日本学術会議連携会員、法政大学法学部教授 建石真公子
医療・医学の立場から	医師、フジ虎ノ門整形外科病院 齊尾武郎
市民・当事者の立場から	フリーライター、（一社）日本ケアラー連盟代表理事 児玉真美
医療社会学の立場から	立命館大学先端総合学術研究科教授 美馬達哉
宗教学の立場から	日本学術会議連携会員、関西学院大学神学部教授 土井健司
倫理学の立場から	日本学術会議連携会員、山梨大学名誉教授 香川知晶
あとがき	日本学術会議連携会員、関西学院大学神学部教授 土井健司

（敬称略）

## 寄附金及び賛助会費の税額控除について

公益財団法人である弊財団に対する賛助会費・寄附金は、特定公益増進法人への寄附金として、確定申告により税額控除等の税制上の優遇措置を受けられます。

個人の方の弊財団に対する賛助会費及び寄附金につきましては、確定申告により、所得税の**税額控除**または**所得控除**のいずれかを選択して受けることができます。

また、本年1月1日現在、東京都にお住まいの方は**個人住民税の税額控除**を、東京都港区にお住まいの方は**特別区民税の税額控除**も、確定申告により受けることができます。

法人の場合は、法人税について、一般寄附金の損金算入限度額とは別枠で、特定公益増進法人に対する寄附金として特別損金に算入できます。算入限度額を超えた分は、一般の寄附金に係る損金算入限度額に算入できません。

昨年1月1日～12月31日までにいただいた賛助会費・寄附金につきましては、本年の確定申告の際に必要な領収証等を、昨年12月より順次お送りしております。

（本年1月以降に賛助会費をお振込みいただいた場合は、本年12月初旬頃に書類を送付する予定です。）

控除の限度額等の詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。



学術会議叢書No.29

『人文社会科学とジェンダー』  
A5判、322頁  
こちらの叢書は好評につき  
完売しました。  
各公共図書館に寄贈しております  
のでそちらでご覧ください。

## 出版物のご案内

※お申込みはFAXにて 03-5410-1822  
品切れを除く近刊の書籍については  
Amazonからもお買い求めいただけます。

### 学術の動向



A4判 (1冊) 792円 (2023年3月号までの額、税・送料込)

賛助会員は毎号1冊無料配布

- 22年 10月号 特集：Disability Inclusive Academia—障害のある人々の視点は科学を(完売) どう変えるか—  
特集：中等教育におけるジェンダー平等について考える
- 11月号 特集：日本の多様性—地域の視点から—  
特集：チバニアン、学術的意義とその社会的重要性
- 12月号 特集：いま「戦争」を考える—社会学・社会福祉学の視座から—  
特集：歴史認識と植民地責任

### 学術会議叢書

A5判 1,980円 (税込・送料別)  
賛助会員は割引価格 1,782円 (税込・送料無)

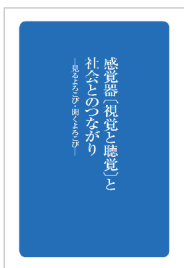
- 2 科学技術教育の国際協力ネットワークの構築
- 9 医療事故は予防できるか
- 12 どこまで進んだ男女共同参画
- 16 食の安全を求めて
- 17 ダーウィンの世界
- 18 科学を文化に
- 20 放射能除染の土壌科学
- 22 地殻災害の軽減と学術・教育
- 23 子どもの健康を育むために
- 24 〈いのち〉はいかに語りうるか？
- 25 IT・ビッグデータと薬学
- 26 社会脳から心を探る
- 27 持続可能な社会への道
- 28 日本の食卓の将来と食料生産の  
強靱化について考える



### 日学新書

新書判 825円 (税込・送料別)  
賛助会員は割引価格 743円 (税込・送料無)

- 2 感覚器 [視覚と聴覚] と社会とのつながり



## 公益財団法人日本学術協力財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-3  
TEL 03-3403-9788  
03-5410-0242  
FAX 03-5410-1822  
URL <http://jssf86.org/>

◎ 当財団の運営、ニュースレター等に関するご意見、ご要望がございましたら、当財団総務担当までお寄せください。  
今後の参考にさせていただきます。皆様方のご意見、ご要望をお待ちしています。